

ひらの ふざん 常設展示 平野富山 — 清水が生んだ彩色木彫の名匠

於：静岡市清水文化会館マリナート ※写真撮影はご遠慮下さい。

テーマ：平野富山と平櫛田中

令和 8 年 7 月～ 10 月 ※月曜休館

今期は、平野富山が生涯の師と仰いだ日本近代木彫の巨匠・平櫛田中 (1872-1979) との関係に注目します。富山と田中との出会いは、昭和 5、6 年頃に富山の師・池野哲仙^{いけのてっせん}のもとを田中が訪ね、作品への彩色を依頼したことに始まります。すでに田中は西洋彫刻を踏まえた迫真的な人体表現による木彫が高く評価され、日本美術院を中心に活躍していましたが、鎌倉・鶴岡八幡宮末社の白旗神社への奉納品制作をきっかけに、彩色した肖像彫刻へと傾倒していきます。そのひとつの到達点が高さ 2 メートルを超える大作《鏡獅子》(東京国立近代美術館蔵)でした。田中が本作の制作に着手した昭和 11 年、哲仙が 56 歳で亡くなったことにより、25 歳の富山が彩色の仕事を引き継ぎました。作品に対し一切の妥協を許さない田中と、それに食らいつき腕を磨く富山。その関係は約半世紀におよび、厚い信頼のもと数多くの彩色を請け負いました。

さて、富山にとって田中の《鏡獅子》の仕事は、彩色担当者としても代表作となりましたが、自身も歌舞伎舞踊「春興鏡獅子」を主題とした作品 (no.5) を制作しています。両手を左右に大きく広げ、片足をあげるといった田中の作とは異なるポーズと、装束の文様表現に変化をつけることで同じ主題であっても趣を異にしており、富山ならではの創意が反映されています。本展ではその他、田中の影響を感じさせる主題の彩色木彫《良寛像》(no.3)のほか、田中の《鏡獅子》の彩色の舞台裏を伝える記録写真もあわせて紹介します。

【出品リスト】

作家名	作品名	制作年	材質	所蔵
1 平野富山	福寿恵比須尊像	昭和 52 年～平成元年頃	木、彩色	静岡市
2 平野富山	福寿大黒天尊像	昭和 52 年～平成元年頃	木、彩色	静岡市
3 平野富山	良寛像	昭和 52 年～平成元年頃	木、彩色	静岡市
4 平野富山	扇面散らし文様欄間	不詳	木、彩色	静岡市
5 平野富山	鏡獅子	昭和 56 年頃	木、彩色	静岡市
6 平野富山	静災 ※原型は 第 13 回日彫展出品	昭和 40 年 ※FRPは没後制作	FRP	静岡市